

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月16日

【評価実施概要】

事業所番号	0372101006		
法人名	特定非営利活動法人今が一番館		
事業所名	グループホーム今が一番館		
所在地	〒020-0173 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字妻の神157番地3 (電話) 019-688-1320		
評価機関名	特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成20年10月22日	評価確定日	平成21年1月16日

【情報提供票より】(平成20年9月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 16 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	18.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	800 円	

(4) 利用者の概要(9月22日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.4 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高橋内科胃腸科クリニック、遠藤医院、菓子歯科クリニック、サマリヤ眼科クリニック
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

岩手山を間近に眺めることのできるグループホーム今が一番館では、安定した職員体制のもと、2つのユニットそれぞれがしっかりと利用者との馴染みの関係を築いており、利用者や家族の事業所に対する安心感が深まっている。また利用者一人ひとりと向き合いながら、利用者がその人らしく生活することを支えるためのケアの在り方を考える話し合いを繰り返し、職員全員で共有して実践につなげている。なお事業所では、地域住民を対象とする介護や認知症について理解を深めるための研修等を行っており、事業所の特色を活かして積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>理念を共有していく取り組みとして、毎日の申し送りやヒヤリハットの報告時等の機会に具体的なケアにつながるような話し合いを職員全体で行っており、各々の職員が心得ている。また災害対策における地域住民との協力体制の充実について、避難訓練時に近隣のボランティアの協力を得ながら実施している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が自己評価に取り組み、数回にわたり職員間での話し合いを行う中で、施設全体としての自己評価を実施した。職員の一人ひとりが自らの日常の取り組みの振り返りの場として活用し、コミュニケーションやリスク対応等の課題の改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に運営推進会議を開催し、事業所としての取り組み全般に関する事項や、ヒヤリハットに関する分析結果の報告等を行っている。会議の中で委員から意見を得て、指摘された事項を参考にしながら、サービスの質の向上に役立っている。また昼食の様子を見学するなど、日頃の雰囲気や伝わるような取り組みを行っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>事業所内に「意見箱」を設置しているほか、定期的に家族へのアンケート調査を実施している。アンケートについて、回答は無記名で第三者(県のグループホーム協会)へ提出するという方法で実施しており、家族が自由に意見を表明できるよう工夫している。また面会時にコミュニケーションを図りながら、信頼関係を築いて、正直な意見が言えるような関係づくりを心がけている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元の中学生を施設に招き、利用者と共に手工芸に取り組んだり、幼稚園児との交流を行ったりするとともに、公民館の花植えへの参加や、地域のお祭りや敬老会へも積極的に参加し地域との交流を深めている。また、家族介護者教室や保育園での認知症についての絵本の読み聞かせを実施しているほか、来年度以降において、地域住民を対象とした認知症に関する研修の開催を検討しており、積極的な姿勢がうかがえる。</p>

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を施設の設立当初に職員全員で作り上げており、利用者が安心して楽しく生活を送ることができるようにという願いを込められた「安心して下さい、いつもあなたの側に私がいます」という言葉で示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホールに掲示すること、及びパンフレットに掲載することにより、日々確認と共有を心がけている。また、施設の職員は理念を共有し、日々の利用者への支援の中で活かすことができるよう申し送り時等の機会に話し合いが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の中学生を施設に招き、利用者と共に手工芸に取り組んだり、幼稚園児との交流を行ったりするとともに、公民館の花植えへの参加や、地域のお祭りや敬老会へも積極的に参加し地域との交流を深めている。また、地域住民を対象とする家族介護者教室に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価に取り組み、数回にわたり職員間での話し合いを行う中で、施設全体としての自己評価を実施した。職員の一人ひとりが自らの日常の取り組みの振り返りの場として活用し、コミュニケーションやリスク対応等の課題の改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、事業所としての取り組み全般に関する事項や、ヒヤリハットに関する分析結果の報告等を行っており、会議の中で意見を得て、指摘された事項を参考にしながら、サービスの質の向上に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政からの認知症高齢者への対応に関する相談があり、入所の照会等への対応を行うなかで、行政との連携の強化を図っている。また、行政から派遣される介護相談員との情報交換の中で、事業所におけるサービス提供の姿勢や行政への要望を伝えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の心身の状況に変化が見られた場合は、その都度家族に対して電話等で報告を行うとともに、日々の生活状況に関しては、月に1度、報告のための手紙を送付している。また、面会時の家族とのコミュニケーションの機会を大切にしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に「意見箱」を設置しているほか、定期的に家族へのアンケート調査を実施している。アンケートについて、回答は無記名で第三者(県のグループホーム協会)へ提出するという方法で実施しており、家族が自由に意見を表明できるよう工夫している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最近では出産や育児を除いて職員の離職は無く、またユニット間での異動は行われていないため、安定した職員体制のもとで利用者一人ひとりとのなじみの関係が築かれている。	○	長期的には、職員の退職や新規採用が発生することが予想されるため、そのような場合に利用者への影響やダメージを防ぐための方策を事前に検討しておくことが必要と考える。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月施設内で職員研修会を開催している。また職員の勤務年数や実務経験等を勘案しながら、外部研修へ職員を積極的に参加させている。さらには職員の介護福祉士、介護支援専門員、認知症ケア専門員の資格取得に関わる支援を行い、職員育成を行うとともに個人の自信を深めることにつながっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に参加し、サービスに関連する情報交換を行っている。また、協会のブロック事務担当として、地域の同業者の研修を企画立案する立場で連携を強化するとともに、他のグループホームと職員の交換研修を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に先立ち管理者とケアリーダーが複数回自宅を訪問し、なじみ関係のもとで安心してホームでの生活を開始することができるよう配慮している。入居後は利用者の日常生活をよく観察するとともに、コミュニケーションの中で相手をよく知り、早く施設になじめるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の際の談話や、レクリエーションにおけるコミュニケーションの中で、互いの思いを伝え合い喜怒哀楽を共にしている。食事の準備や片付けを利用者と職員が共に行っており、ミズキ団子作りや季節行事の際には、利用者からのアドバイスを得るなど、お互いに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居受け入れの時点で利用者や家族の意向を確認するとともに、センター方式アセスメントを活用して本人が言葉で訴えることの出来ない思いを理解するように継続的な取り組みに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	役割分担、業務シフトの工夫、職員相互のサポートによりチームを強化を図っている。また、利用者や家族の希望を確認するとともに、加齢による心身機能の変化に対応するために、毎月ケアカンファレンスを開催し、職員相互に意見を出し合いながらケア計画の立案に取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の日々の活動状況を観察し、特別な変化が見られた場合は、毎日の申し送りで「特記事項」として記録され、必要に応じてケア計画の見直しが検討されている。また毎月のケアカンファレンスでケア計画の定期的な見直しを行い、利用者の意向を反映しながら、心身の状況の変化に即応した支援を行うことを目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の日々の通院に際しては、施設の看護職員が付き添い、地域の医療機関と連携しながら対応している。また併設するデイサービスの利用者と一緒に活動することもある。このほか、住民を対象とした家族介護者教室の開催や民生委員を対象とする研修の実施など福祉教育の機能を提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、整形外科、歯科、眼科、耳鼻科等、診療科ごとにかかりつけ医による受診が行われており、通院に際しては看護師職員が付き添い、必要な情報提供を行い適切な指示を受けている。また、毎年利用者の誕生日には健康診断を実施し体調等の変化に留意している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のケアに関しては、職員間で勉強を行いながら、その対応の在り方について方向性を共有している。具体的には、医療対応が必要となった時点で、医師、家族、職員が話し合いを行い、最終的には医師のアドバイスを得ながら対応の方向性を決定している。	○	緊急時の対応に関しては、医療機関との協力関係が重要であり、施設の現状や課題を理解してもらうための情報提供を行いながら、連携の強化に取り組まれない。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居の時点で、広報に氏名や写真を掲載してよいか家族の意向確認を行っている。また、ケース記録等の取扱に関しては名前ではなくイニシャルを表記として用いるとともに、個人情報に関する書類は事務所に置き、管理を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の一人ひとりをよく知り、その人の思いや習慣を理解し、活かすための支援を心がけている。散歩に出かける際などその時々々に利用者の意向を聞き、また馴染みの美容院への外出支援するなどの個別の生活スタイルを支える取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「ひつつみ」などの郷土料理づくりや、食事の盛り付けなどを職員と利用者が協力しながら行っている。また敷地内に畑があり、育てた野菜を使ったメニューを提供するなど、会話を交えて楽しみながらの食事となっている。	○	食事時の会話を盛り上げるためのコミュニケーション技術としては、グループ回想法等のテクニックの応用が可能と思われるので、グループワークの手法に関する研修への取り組みの可能性を検討していただきたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴時間を午後2時から5時頃までとして、希望者への入浴の支援を行っている。利用者の中には、その日によっては気が進まない方もいるが、そのような場合でも時間をおいて声掛けをしたり、入浴剤を入れて雰囲気を変えたりしながら入浴をすすめている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	米を研ぐことや、食事の準備及び片付けなど日常生活の中の役割をその人らしさを支える視点として捉えたとともに、簡単な体操や学習ドリルなどを取り入れながら、利用者の楽しみや喜びを支える取り組みを実施している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日にはほとんど毎日、施設外でのボール遊びや散歩の支援を行っている。さらに、週1回程度の買い物を行うと共に、2週間に1回程度はお花見や紅葉狩りなどのドライブに出かけており、さらには外食の機会等もあり利用者に喜ばれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の居室には鍵はなく、施設の玄関については、日中は鍵をかけておらず、センサー感知式のチャイムで利用者は来訪者の出入りが確認できるようになっている。ただし、防犯のために午後7時半から翌朝の7時ごろまでは玄関に施錠している。	○	現状では無断外出する利用者はいないとのことであるが、将来のあらゆる可能性を考えながら、利用者の無断外出や徘徊時の対応の在り方について、近隣の住民との話し合いの機会を設けていただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防計画を作成し、消防署の職員立会いのもとで避難訓練を実施している。その避難訓練に際しては、近隣のボランティアの協力も得ている。また非常時の災害への対応の一環として、職員が救急救命の講習を受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取及び水分摂取の量を記録するとともに、毎月体重測定を行って、利用者の体調の変化等を把握している。また調理師が毎月個別の栄養摂取状況を確認し、必要に応じて食事メニューを検討したり、高カロリー食の提供を行ったりしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は全体的に空間的な余裕があり、明るく、清潔感が確保されている。居間には花が飾られているとともに、窓からは畑や田圃、周囲の山々の風景を見渡すことができ、季節を感じながら穏やかに過ごすことができる空間となっている。	○	明るさ、清潔感、機能性に加えて、いかにして生活感を醸し出していかという点に関してご検討を願いたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室毎に異なった暖簾が掛けられていた。利用者によっては、タンスや小さなソファを居室に持ち込み、家族の写真を壁に飾るなど、それぞれの個性に合わせた居室の配置となっていた。	○	利用者によっては、馴染みの品物であっても、自分の物という感覚がなくなっている方もいるとのことであったが、「その人らしさ」における個性やアイデンティティを支えるという視点についての検討を願いたい。